

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		113-01-03	
事務事業名		古市駅東広場管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線2731	
担当部署名		魅力づくり推進課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	8	土木費
	施策	1	土地利用・市街地整備		項	4	都市計画費
	施策の方向	3	魅力ある交流拠点の推進		目	4	都市整備推進費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	近鉄古市駅利用者 及び 駅周辺への来訪者					
	目的 (どうしたいか)	本市の魅力について情報提供する機会を設けると共に広場を利用した地域活動による賑わいの創出を図る。また、古市駅への円滑な移動環境を確保する。					
	手段 (事業内容)	・観光案内所の設置(観光課管理) ・古市駅東広場内にスロープ設置					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 需用費 138千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	594	1,432	730		
決算額	事業費	162	138	－		
	特定財源等	0	0	－		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	広場利用件数	単位	件	
指標の説明	啓発活動や地域の催事での広場の利用			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		4	3	－
実績		3	5	－

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	適正管理率	単位	%	
指標の説明	適正な管理			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		100	100	－
実績		100	100	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市の玄関口として駅利用者等が安心して利用できるよう引き続き適正な管理を行う。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 令和4年9月に一般財団法人大阪はびきの観光局が設立され、事務所及び同局が運営する観光案内施設(はびきのビジターセンター)が古市駅東広場に隣接していることから、令和5年度以降同局と連携した事業展開により、広場を市の観光拠点として人の集まる空間となるよう活用していく。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		531-02-01	
事務事業名		華やいで大阪・南河内観光キャンペーン協議会事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線2732	
担当部署名		魅力づくり推進課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち		款	7	商工費
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1	商工費
	施策の方向	1	地域資源の活用と観光資源の創出		目	3	観光費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	地域住民及び国内外の観光客					
	目的 (どうしたいか)	大阪府及び南河内地域への来訪者を増やし、滞在を促す。					
	手段 (事業内容)	南河内8市町村、大阪府、公益財団法人大阪観光局、近畿日本鉄道株式会社、南海電気鉄道株式会社が協力し、PR事業・ウォーク事業・ウェブサイト運営など、観光宣伝及び観光客誘致事業を実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 南河内観光キャンペーン協議会負担金 300千円 【特定財源】 なし	
当初予算額	事業費	300	300	300		
	特定財源等	0	0	—		
決算額	事業費	300	300	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	イベント実施回数	単位	回	
指標の説明	「観光PRキャラバン」及び「みなみかわち歴史ウォーク」			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		2	3	2
実績		2	3	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	イベント参加者数	単位	人	
指標の説明	イベント等への参加者数(来客)数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1,500	1,500	1,500
実績		1,632	1,014	—

≪事業の参考数値等≫

令和4年度(実績)
●サイクリングイベント
「サイチャレ!」108人
●ウォーキングイベント
「みなみかわち歴史ウォーク」341人
(別日約300人)
●物産市・PRキャラバン
「みなみかわち物産市」265人
※基本のイベント開催は「観光PRキャラバン」「みなみかわち歴史ウォーク」の2イベント

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 自然と歴史が豊かな南河内地域は、ウォークラリーなどのコースに適しており、リピーターも増加傾向にある。また、同協議会にてアカウントを作成しSNS(Instagram)投稿を開始するなど、本協議会が南河内地域をPRすることで、南河内地域への来訪者に対し、各自治体の魅力を知ってもらう機会を創出している。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 大阪はびきの観光局との連携のもと、南河内8市町村で連携を強化し、更なる魅力発信や事業が実施できるよう、新たな取り組みを検討する。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		532-01-06		
事務事業名		育苗施設管理事務事業		事務の種類			自治事務(任意のもの)	
				連絡先			内線2731	
担当部署名		魅力づくり推進課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち		款	7	商工費	
	施策	3	観光振興・都市間交流		項	1	商工費	
	施策の方向	2	観光振興を推進する仕組みづくり		目	3	観光費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民等						
	目的 (どうしたいか)	事業着手されていない公共用地の活用推進事業において、暫定的にビニールハウスを設置し花苗等の栽培を行ない緑化推進を図る。また、駒ヶ谷駅西側公園や観光農園と合わせて一体的な観光振興にかかる施設として活用する。						
	手段 (事業内容)	駒ヶ谷駅西側公園や道の駅等を修景する花苗の生産・育成。ビニールハウス内にて数種類のブドウを育成し、観光農園事業として取り組む。						

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 消耗品費 13千円 電気料金 40千円 水道料金 9千円 等 ※千円未満切り上げ ※解体・撤去工事費 3,560千円は執行せず。 【特定財源】
当初予算額	事業費	669	4,067	506	
決算額	事業費	132	61	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名			単位	
指標の説明				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		—	—	—
実績		—	—	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名			単位	
指標の説明				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		—	—	—
実績		—	—	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当でない。	C
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	見直す必要がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響はない。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	成果は不十分である。	C
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合が可能である。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	C
	人件費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	休止・廃止	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 同施設では業務委託にて花苗を育成し市内公共施設や学校園等に配布していたが、令和2年度にて同業務が終了し、新たな運用方法を検討することとなった。観光振興施設として活用する方法について、地元農家に貸し出す等を視野に入れ、協議・検討中。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) ぶどう(虹の雫など)を始めとする新品種や絶滅危惧IA類に指定される橘(市の木)の苗木の育成など、若手農家育成及び観光振興にかかる施設として活用するとともに、成果物をふるさと納税返礼品として使用する等により広く周知することを視野に入れ、地元農家と協議しながら実施に向けて取り組む。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		542-02-01				
事務事業名		ご当地キャラクター活用事業		事務の種類			自治事務(任意のもの)			
				連絡先			内線2731			
担当部署名		魅力づくり推進課		予算科目	会計	1	一般会計			
総合基本計画	施策目標		5		魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち		款	7	商工費	
	施策		4		シティプロモーション		項	1	商工費	
	施策の方向		2		まちの魅力の戦略的・効果的な発信		目	3	観光費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)		市民等							
	目的 (どうしたいか)		地元への愛着と、市政への関心を持ってもらい、また、市外からの誘客を促す。							
	手段 (事業内容)		羽曳野ご当地キャラクターつぶたんの市行事及び各種イベント等への参加、市の印刷物へのキャラクターデザイン画像の使用、グッズ販売、SNS投稿など、人々の目に触れる機会を増やし、親近感を持ってもらう。							

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 備品購入費 1,424千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	99	1,523	251		
決算額	事業費	77	1,424	－		
	特定財源等	0	0	－		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	つぶたん稼働率	単位	回	
指標の説明	着ぐるみ等の表出回数(市行事、イベント等への参加や、SNS発信など)			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		20	40	50
実績		22	34	－

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	つぶたんグッズ売上額	単位	円	
指標の説明	つぶたんグッズの年間売上額			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		150	60	0
実績		147	129	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 平成23年に誕生した、羽曳野市ご当地キャラクター「つぶたん」は、今では幅広い年代に認知され、地域に根付いたキャラクターとなっている。アフターコロナで行事・イベント等が再開され始めたことや、市外でのイベント等への出向により露出回数が増加傾向にあるが、SNS等による情報発信など、更に積極的に取り組む。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) より効果的なPRを目指し、着ぐるみ運用マニュアルの策定や、不足するアクターの養成をすることで、活動及び貸出回数を増加させ、より効果的なPRツールとして活用する。また、SNS発信等でも露出回数を増やし、認知度が上がるよう取り組む。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業名		事務の種類		事務事業コード	
ふるさと納税事務事業		自治事務(任意のもの)		542-03-03	
連絡先		内線2735			
担当部署名		魅力づくり推進課			
総合基本計画	施策目標	5	魅力発見 賑わいと創造にあふれるまち	会計	1
	施策	4	シティプロモーション	款	2
	施策の方向	2	まちの魅力の戦略的・効果的な発信	項	1
				目	5
事業の概要		「羽曳野市を応援したい」など、市に関心のある方や団体等			
目的(どうしたいか)		羽曳野市に関心のある方や団体等から広く寄附を募り、その寄附金を財源とした教育、文化、福祉等の推進、自然環境及び生活環境の保全に資する事業を実施する。また、市外在住者から受け入れた寄附に対し、市の特産品を謝礼品として送付することにより、市をPRするとともに地域の活性化・市内事業者の活性化を図る。			
手段(事業内容)		市ウェブサイトやふるさと納税専用サイトの活用による”ふるさと納税”や”企業版ふるさと納税”に関する情報の発信や、手続きをスムーズに進めるため、ふるさと納税に精通した事業者へ、寄附金の受領や地元事業者との調整・謝礼品のPRなど一連の業務を委託。			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	42,314	80,071	134,406
決算額	事業費	49,121	63,792	—
	特定財源等	0	0	—

《主な内訳(令和4年度決算)》

【事業費】
●需用費
(返礼品代)11,419,208円
(印刷製本費)456,800円
●委託料
(業務委託料)48,742,138円
●役務費
(決済等手数料)1,948,901円
(サービス利用料)1,224,850円

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	ふるさと納税返礼品タイアップ事業者数	単位	社
指標の説明	羽曳野市ふるさと応援寄附における地元特産品等タイアップ事業に参加し、ふるさと納税返礼品の提供を行っている事業者数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	70	85	95
実績	64	90	－

《事業の参考数値等》

【令和4年度寄附額(内訳)】
ふるさと納税:126,517千円
企業版ふるさと納税:1,000千円

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	寄附額	単位	千円
指標の説明	1年間にふるさと納税として寄附された金額		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	86,000	154,542	248,967
実績	104,623	127,517	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
国内でのふるさと納税制度の浸透により全国的に寄附規模が拡大していることと、独自に市内タイアップ事業者を増やし返礼品を拡充したこと等が、前(令和3)年度より寄附収入が約22%増額した理由と考えられる。今後は、市内事業者の新規参入数が緩やかになることが予想されるので、既存の事業者及び返礼品の魅力をもっと引き出すことや、継続して寄附してもらえようリピーター獲得に向けて効果的な情報発信等を行う必要がある。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
引き続き市内事業者及び返礼品の拡充に向けて、積極的に情報収集し、ふるさと納税業務中間委託事業者と連携しながら魅力的な返礼品の開発に取り組む。 また、既存返礼品である特産品等(ぶどう・ワイン・いちじく・あぶらかす等)を市の魅力として特に広く情報発信し、市の認知度アップとともに更なる寄附収入の増額を目標に取り組む。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

					事務事業コード		631-05-01		
事務事業名		竹内街道活性化事業			事務の種類			自治事務(任意のもの)	
					連絡先			内線2731	
担当部署名		魅力づくり推進課			予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち			款	2	総務費	
	施策	3	歴史・文化			項	1	総務管理費	
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり			目	5	企画費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	竹内街道及びその周辺の資産等							
	目的 (どうしたいか)	魅力を再生・創造し、広く発信することにより、地域に対する愛着や誇りを醸成し、地域全体の活性化を促進する。							
	手段 (事業内容)	本市単独での取組みの他、大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村からなる12の沿道自治体などで組織を形成し、府県の枠組みを越えて連携しながら、街道の活性化に向けた取組みを行う。							

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会負担金 200千円 【特定財源】 なし	
当初予算額	事業費	200	200	200		
決算額	事業費	200	200	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	会議の開催回数	単位	回	
指標の説明	実行委員会及び幹事会等の開催回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		6	6	6
実績		6	6	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	実行委員会全体としての事業数	単位	事業	
指標の説明	実行委員会にて計画されている関係自治体が連携して行っている事業数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		5	4	5
実績		6	4	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	概ね妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 日本遺産に認定をされて6年が経過した。コロナ禍と重なった時期もあり、イベントや観光などにも影響があったが、街道沿線の自治体が協力し、小学生対象に資料の配布やパネル展など地道なPR活動により、認知度も上がっている。 今後、街道の保存部分と新たな活用が大きな課題になる。それらを見出すため、市町村だけでなく、企業や団体の協力体制を構築しなければならない。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 日本遺産の継続審査の結果、令和5年7月に認定継続の決定がされた。各市町村では、出前授業や沿道の構成する文化財の勉強会、講演などを充実し、これからの世代により認知してもらうための活動をしていく。 また、実行委員会では、飲料メーカーとの協定を予定し、竹内街道ラッピングの自販機設置を計画。それぞれの市町村で設置するための調整を行う。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		631-05-02	
事務事業名		地方創生交流拠点整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線2731	
担当部署名		魅力づくり推進課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策	3	歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	旧浅野家住宅(長屋門、蔵、ミセ東、広場、(主屋))					
	目的 (どうしたいか)	築100年を超える家屋の再生・利活用をめざし、観光・交流の拠点づくりを目指す。					
	手段 (事業内容)	旧浅野家住宅の基本構想策定にともないCM業務事業者をプロポーザルにて選定。 建物の劣化状況の把握、再生・利活用の課題整理を行い、観光・交流の拠点としての計画をたてる。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 旧浅野家住宅基本構想策定委託料 9,812千円 【特定財源】 なし	
当初予算額	事業費	0	9,815	26,121		
決算額	事業費	0	9,812	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	用地・建物の取得率	単位	%	
指標の説明	拠点となる浅野家住宅の取得率			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標(見込)	50	－	－	
実績	－	－	－	

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	拠点施設の整備状況	単位	%
指標の説明	拠点施設にかかる整備の進捗率		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	50	－	－
実績	－	－	－

≪事業の参考数値等≫

「成果指標」については、事業全体の見直しについて検討中であることから、「—(評価なし)」としている。

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	B
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	概ね妥当であるが見直しの余地がある。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	成果は不十分である。	C
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減を検討する余地がある。	B
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	改善して継続	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 地方創生交流拠点として、当初はレストラン・カフェ・宿泊ゾーン等の整備を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会情勢への影響を勘案し、整備事業全体の見直しを行いながら、整備を進めている。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) ポストコロナを踏まえた観光・交流拠点として整備するため、令和4年度に基本構想・基本計画の策定を行った。今後は、基本構想・基本計画に基づき、順次、整備を進めていく。